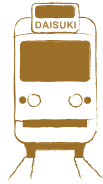


市電



vol.5



ファインダー越しに見えてくる、市電とまちの絵になる関係

市電への愛や、思い出を語って頂くこのコーナー。第5回は元市電運転手の野村耕一さんです。緻密な計算と経験から生み出される、素晴らしい写真をお楽しみください。



—素朴な質問ですが、市電を運転するにはどんな免許が必要なのですか？

「動力車操縦者運転免許」が必要です。この中にもいろいろ分類があって、JRなど鉄道の電車を運転する場合は「甲種電気車運転免許」、道路上に敷設された軌道を走る路面電車の場合は、「乙種電気車運転免許」を取得します。交通事業振興公社で発行しているタウン誌『ウィズユー』で、以前に交通局の教習所特集などをしていますね。

—路面電車にはまったきっかけとは？

大学生のときに、函館でササラ電車を見たこと。昔から鉄道写真はよく撮っていましたが、ササラ電車を初めて見たときは「こんな車両があるんだ」って、かなり驚きました。12年前に札幌に来て、実際に路面電車を運転してからは、札幌の路面電車を中心に撮り続けています。

—ご自分で撮影した写真で、カレンダー（非売品）も製作されているのですよね。

運転手を辞めてから製作を始めたので、かれこれ9年になります。カレンダーに載せる写真は、前年の同じ月に撮影したものを使用すると決めているので、休むことができないのです。

—撮影は休日に？

休日とか、仕事の後とか。平日でも、三吉神社と北海道神宮の例祭のときは、可能な限り休暇を取って撮影に行きますよ。神輿渡御と市電と一緒に撮影できるのは、その日しかないのです。ササラ電車の初出勤も必ず撮ります。

—ここまでタイミングの良い写真を撮るには、ある意味運も必要なのではないかと。

運もあると思いますけど、やっぱり足繁く通っていますから。ポツカットも相当ありますし。ただ、やっぱり撮っていて自分が楽しいし、「自分が撮らなければ他に誰が撮るんだ」という自負もあります。

—沿線の環境もここ数年で変わったと思いますが、「これは本当に札幌？」と感じる写真もあります。

写真を事業所に持って行くと、運転手の方にも「こんな場所があるんだ」って驚かれることがあります。風景って普段意識せずに眺めているから、その一部にスポットを当てて切り取ることによって、新鮮に見えることもあるのでしょうね。実際に、沿線の環境も結構変わりました。昔は西15丁目から藻岩山を背景に撮ることができましたけ



※撮影は全て、停留所等の安全な場所から撮影されています。

ど、今はマンションが建っているのも、もう無理。他の場所でもマンションが建ったり、木がなくなってしまったり、市電の走る時間が変わったり……昔は撮れたけど今はもう撮れない絵というのは、だいぶ増えましたね。

—市電の撮影に関しては極めた感がありますが、今後の目標などありますか？

まだ満足できていない部分があるので、今後も、より良い構図の写真を追求していきたいです。自分も昔そうだったので、電車が好きな人って電車だけを撮りがち。でも実は、電車の背景こそが重要なんです。そう考えると、これだけ絵になる写真が撮れる札幌というまちは、素晴らしいまちだなと。市電の撮影を通して、そう実感しています。

野村 耕一

昭和51年生まれ岩手県出身。大学生活を函館で過ごしたのち、平成12年に札幌市交通局の路面電車運転手に嘱託職員として採用される。現在は消防職員として勤める傍ら、趣味として札幌市電の写真を中心に創作活動を続ける。

1 北海道日本ハムファイターズの優勝パレードが行われている中の一枚。一帯が歩行者天国になり車が通らないので、撮影もしやすいそう。2 昔は、正月三が日の市電の始発が今より遅かったため、朝日のあたる藻岩山を背に走るササラ電車を見ることができた。現在はもう撮れない一枚。3 ウィズユーカードに採用された写真。この写真ははじめとして、10枚のウィズユーカードに写真が採用された。

4 運転手時代に発掘した撮影スポット。運転中にこの桜が目に入ったので休日に訪れたところ、予想通り面白い構図の写真が撮れた。5 路線の向こう側に上がる中秋の名月と、市電のコラボレーション。月の上がる位置を計算し、何年も通ってやっと撮れたショット。6 北海道神宮の神輿渡御と、最も古いデザインのM101。何十年も変わらない組み合わせは、これからも大事に残したい風景の一つ。